

岩手県内新入社員の職業観と生活観

——2020年新入社員意識調査より——

当研究所では、毎年、新入社員を対象とした「職業観と生活観」に関するアンケート調査を行っている。今回は新型コロナウイルスの状況を考慮して時期・内容を見直し実施した。調査要領は以下の通りである。

○調査時期 4月～7月

○回答者数 196名（男性88名、女性108名、内7月調査回答者128名）

※当研究所主催の新入社員研修会を7月に延期し実施したことに伴い7割弱が入社後3カ月での調査となり、入社時から意識が変化した項目を図表5-12と同8-12にまとめた。

〈調査結果の要約〉

- 就職活動を振り返った感想は、昨年同様学生優位の売り手市場で、厳しさが和らいだ状況が続いた。県内企業を選んだ理由としては、地元への愛着や友人知人の存在が大きな決め手で、住居費等経済的負担の少なさも要因として上昇した。
- 社会人生活では、例年同様「仕事がこなせるか」や「職場の人間関係」の不安から「円滑で豊かな人間関係」を期待し、上司先輩に対しては仕事の目標、やり方などの明確な指示を求め、人物としては尊敬できる上司・先輩を望んでいる。
- 働くことについては、「仕事も私生活も大事」にしながら「自己のスキルアップができる」仕事の希望が多く、売り手市場を背景に職業選択の幅が広がり、興味のある仕事や労働条件の良い会社を選ぶ一方、転職も視野に入れた職業観が強まっている。
- 生活観では、結婚希望の割合が高まるとともに晩婚化の傾向が強まった。女性では結婚相手に経済力を求める傾向が年々増加傾向にあり、結婚出産後の仕事の継続については継続を求める割合が高まる一方、仕事を辞め育児専念を求める割合も高まり2極化が進んでいる。
- 今回調査では入社後3か月を経過し、仕事重視から個人生活重視へ、長期勤務から転職希望への意識の変化が見られた。コロナ禍による勤務環境の変化の影響のほか、実際の職場を経験し期待と現実の乖離を感じた可能性も考えられる。



就職活動を振り返った感想

● 就活の感想は厳しさの緩和が継続

就職活動を振り返った感想は「それほど厳しくなかった」と「楽だった」との回答の合計は全体で67・9%（前年比3・0ポイント減）と低下し、「大変厳しかった」と「厳しかった」（以下「厳しい」と）の回答の合計が30・6%（同3・5ポイント増）と上昇した（図表1）。

「厳しい」の割合をみると、男性は21・8%（同2・6ポイント減）、女性は37・8%（同7・3ポイント増）で、厳しさは男性が和らぎ、女性は強まった。

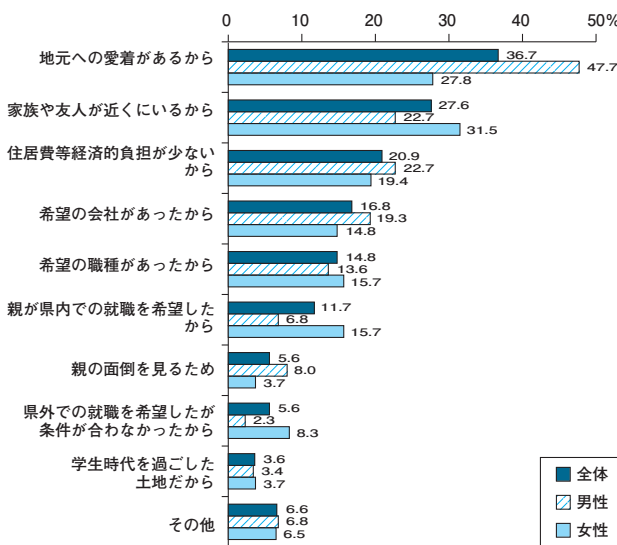
就職先として県内企業を選んだ理由

● 「地元への愛着」や「家族や友人の存在」が決め手

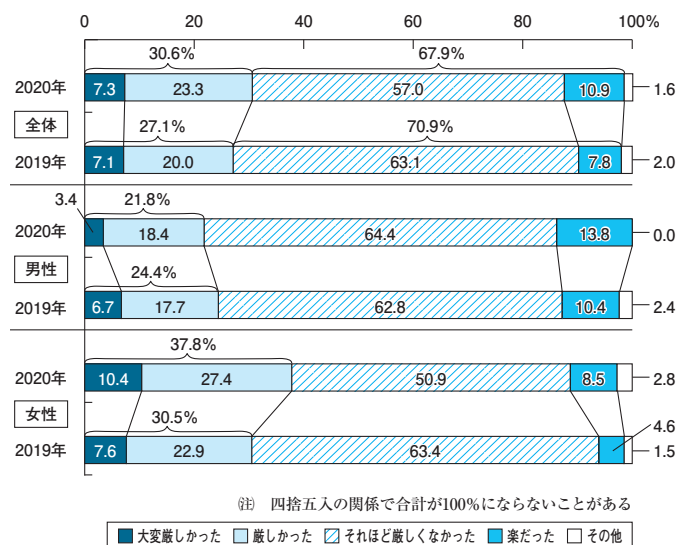
就職先に県内企業を選んだ理由は、「地元への愛着があるから」が36・7%（同3・0ポイント減）、「家族や友人が近くにいるから」27・6%（同2・5ポイント増）、「住居費等経済的負担が少ないから」20・9%（同7・7ポイント増）の順となった（図表2）。

このうち男性は「希望の会社の存在」が12・4ポイント低下の一方、「地元への愛着」が5・6ポイント、「経済的負担が少ない」が11・1ポイントそれぞれ上昇した。女性は「地元への愛着」が8・8ポイント低下し、「経済的負担が少ない」が4・1ポイント上昇した。

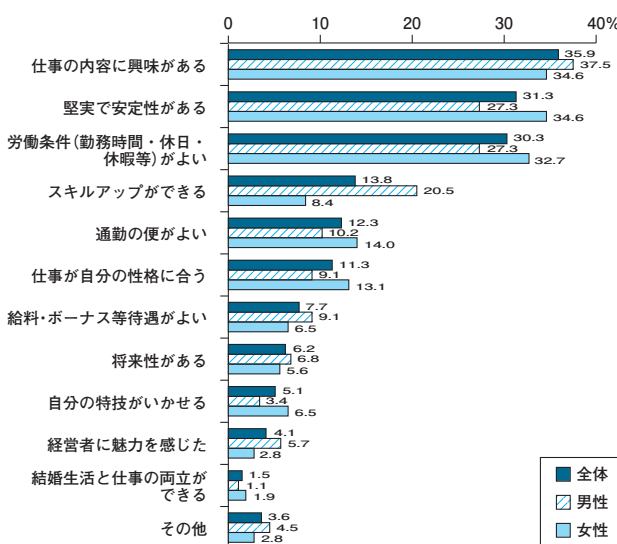
図表2 就職先として県内企業を選んだ理由（2つ以内の複数回答）



図表1 就職活動を振り返った感想



図表3 就職先を選んだ理由（2つ以内の複数回答）



職業観

就職先選択の理由

● 「仕事内容への興味」、「堅実性安定性」の順
就職先を選んだ理由は「仕事の内容に興味がある」が35・9%（同1・9ポイント減）、「堅実で安定性がある」31・3%（同0・3ポイント減）、「労働条件（勤務時間・休日・休暇等）がよい」30・3%（同3・8ポイント増）などの順となった（図表3）。

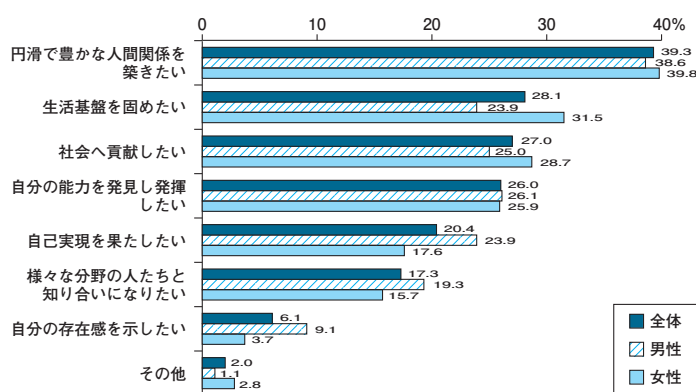
前年と比べ最も増加した項目は「通勤の便がよい」（同5・8ポイント増）で、学生優位の就職活動で地理的な面でも選択肢が広がったものとみられる。

社会人生活に期待すること

●「豊かな人間関係」と「生活の基盤固め」

社会人生活に期待することは前回同様「円滑で豊かな人間関係を築きたい」が39・3%（同3・9ポイント増）と最も多く、次いで、前回3位の「生活基盤を固めたい」28・1%（同0・1ポイント減）が前回2位の「社会へ貢献したい」27・0%（同2・3ポイント減）を逆転した（図表4）。「円滑で豊かな人間関係」は男女とも前年比増加して4割に迫り、女性では「生活基盤を固めたい」も3割を超えている。

図表4 社会人生活に期待すること（2つ以内の複数回答）

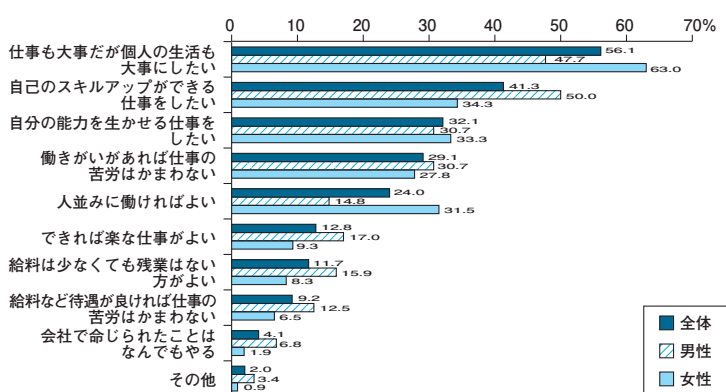


働くことについての考え方

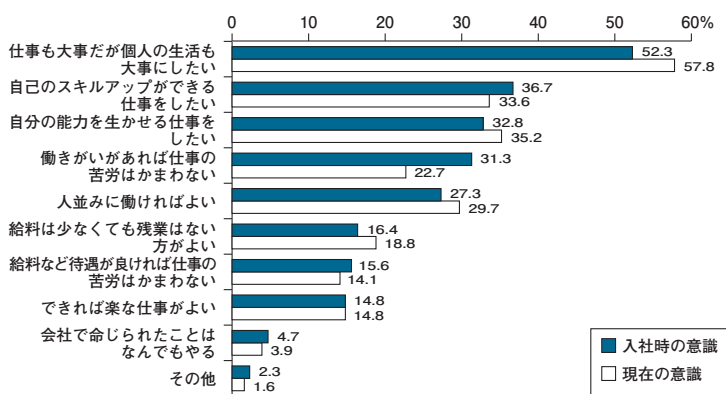
●「私生活とのバランス」と「スキルアップ可能な仕事」

働くことについての考え方も、前回同様「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」が56・1%（同1・2ポイント増）と最も多く、以下、前回3位の「自己のスキルアップができる仕事をしたい」41・3%（同5・0ポイント増）が、前回2位の「自分の能力を生かせる仕事をしたい」32・1%（同9・3ポイント減）を逆転し、前年比増加して4割に迫り、女性では「働きがいがある仕事は苦勞はかまわない」が29・1%（同0・4ポイント減）で続いた（図表5-1）。

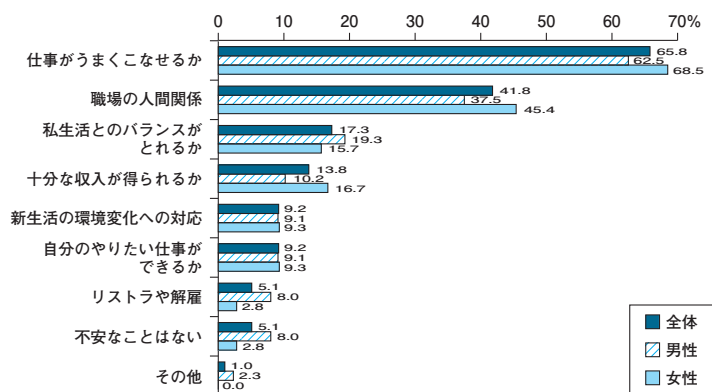
図表5-1 働くことに対する考え方（3つ以内の複数回答）



図表5-2 働くことに対する考え方（7月調査者の意識変化）



図表6 社会人生活で不安を感じる事（2つ以内の複数回答）

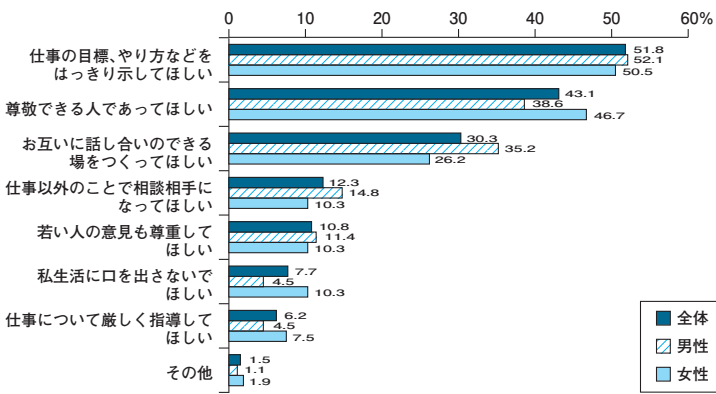


なお7月調査では入社時に比べ「働きがいがあれば仕事の苦勞はかまわない」が8・6ポイント低下し、「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」が5・5ポイント上昇し、仕事より個人生活重視への変化がみられた（図表5-2）。

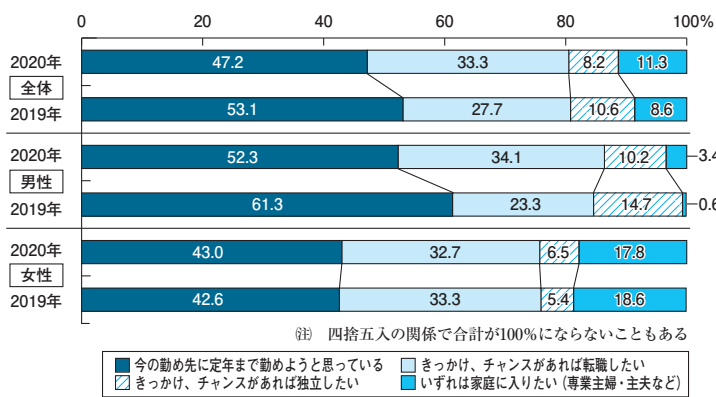
●「仕事がかまえるか」と「人間関係」が上位

社会人生活で不安を感じることは、前回同様「仕事がかまえるか」と「人間関係」が上位3・4ポイント減）と「職場の人間関係」41・8%（同3・2ポイント減）が男女ともに低下したものの突出している（図表6）。

図表7 上司・先輩に望むこと（2つ以内の複数回答）



図表8-1 定年まで今の勤め先で働きますか？



図表8-2 定年まで今の勤め先で働きますか？（7月調査者の意識変化）

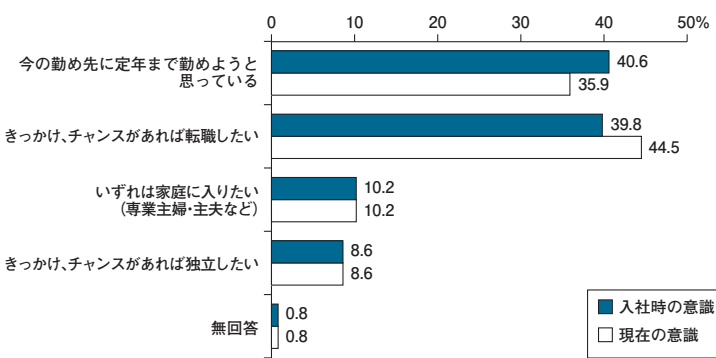
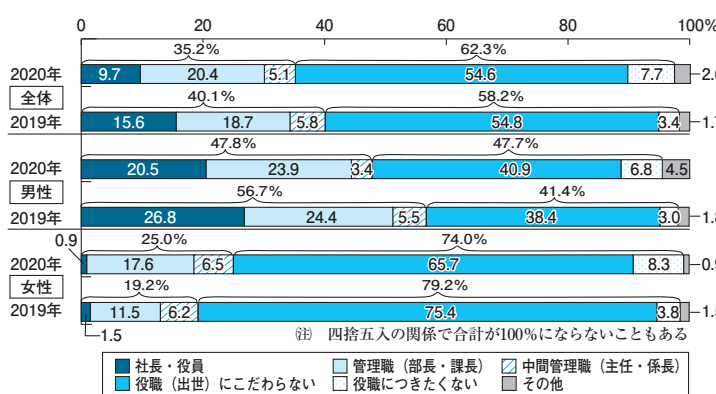


表9 将来目指す役職は？



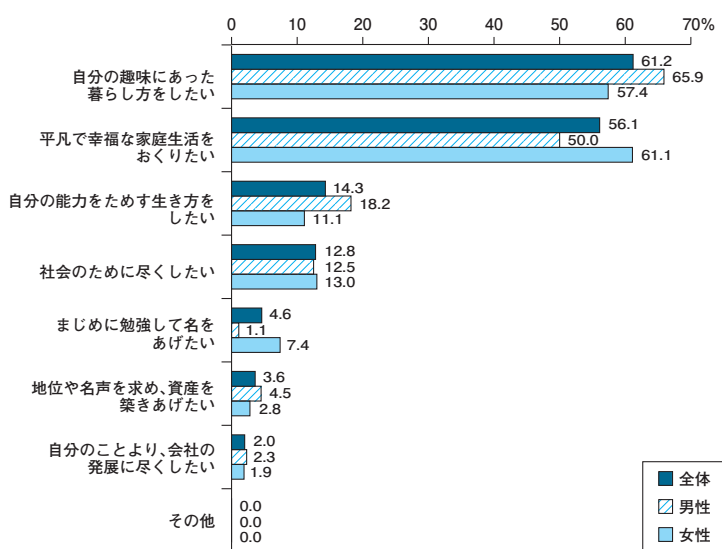
上司・先輩に望むこと
 ●「仕事の明確な指示」と「尊敬できる人」を望む
 上司・先輩に望むことは「仕事の目標、やり方などをはっきり示してほしい」51・8%（同2・2ポイント増）、「尊敬できる人であってほしい」43・1%（同1・0ポイント減）、「お互いに話し合いのできる場を作ってほしい」30・3%（同0・4ポイント減）が上位を占めた（図表7）。前項で上位となった「仕事への不安」に対しては明確な指示を望み、「職場の人間関係の不安」に対しては「尊敬できる上司・先輩」に期待する回答となっている。

定年まで今の勤め先で働くか
 ●「今の勤め先で定年まで働きたい」が減少
 定年まで今の勤め先で働くかについては、「定年まで勤めようと思っている」が47・2%（同5・9ポイント減）と3年連続の低下、「きっかけ、チャンスがあれば転職したい」が33・3%（同5・6ポイント増）、「いずれは家庭に入りたい」が11・3%（同2・7ポイント増）の順となった（図表8-1）。男女別では、男性は「定年まで勤める」の減少と「転職」の増加が目立つ一方、女性は男性ほどの大きな変化はない。なお7月調査では入社時に比べ4・7ポイント

「定年まで」が低下し「転職」が上昇した（図表8-2）。
 将来目指す役職は？
 ●男女ともキャリア志向が弱まる
 全体では「中間管理職以上を目指す」割合が35・2%（同4・9ポイント減）と減少した一方、「役職（出世）にこだわらない」や「役職につきたくない」が62・3%（同4・1ポイント増）など役職（出世）に執着しない割合が前回に続き上昇し6割を超えた（図表9）。男女別では、中間管理職以上を目指す割合は、男性が低下した一方、女性は上昇した。

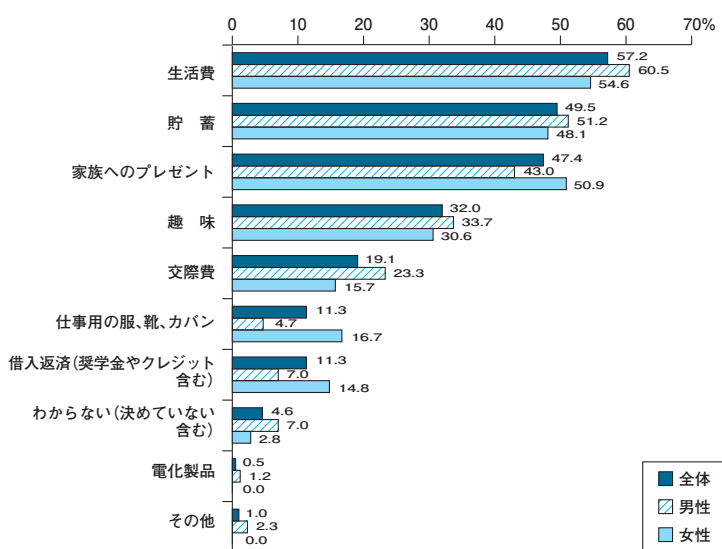
理想とする生き方

図表10 理想とする生き方（2つ以内の複数回答）



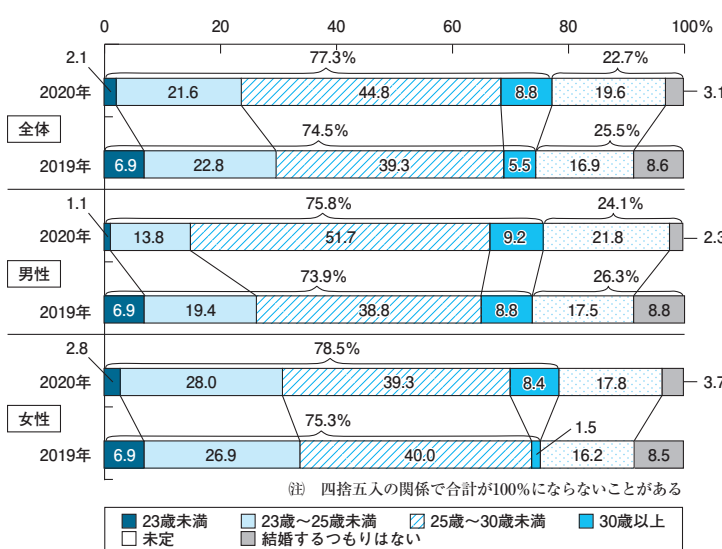
●「趣味にあった暮らし方」「平凡で幸福な家庭」の順に理想の生き方については、前回同様「自分の趣味にあった暮らし方をしたい」が61・2%（同1・8ポイント減）と、「平凡で幸福な家庭生活を送りたい」の56・1%（同0・0）と、この項目で大宗を占めた（図表10）。男女差を見ると、「自分の趣味にあった暮らし方」は男性が女性を8・5ポイント上回った一方、「平凡で幸福な家庭生活」は女性が男性を11・1ポイント

図表11 初任給の使い道（3つ以内の複数回答）



●「生活費」が「貯蓄」を上回った。初任給の使い道は「生活費」が57・2%（同7・7ポイント増）と最も多く、次いで「貯蓄」49・5%（同5・9ポイント増）となり生活費が貯蓄を上回った。以下「家族へのプレゼント」47・4%（同8・9ポイント増）、「趣味」32・0%（同1・3ポイント減）の順となった（図表11）。男女差が大きいのは、女性は「仕事用の服、靴、鞆」で12・0ポイント、「家族へのプレゼント」で7・9ポイント男性を上回り、男性は「生活費」

図表12 何歳ぐらいで結婚したいと考えていますか？

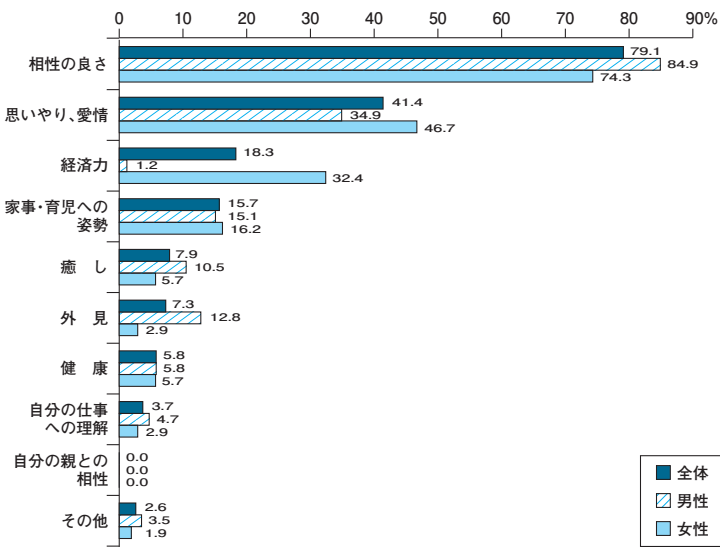


●結婚希望は男女とも上昇傾向。年齢にかかわらず結婚したいと考える割合は77・3%（同2・8ポイント増）と上昇し、「未定」または「するつもりはない」とする割合が22・7%（同2・8ポイント減）と低下した。結婚時期については男性は「25歳以上で結婚したい」が13・3ポイント増加、女性も6・2ポイント増加し晩婚化が進む傾向となった（図表12）。

結婚について

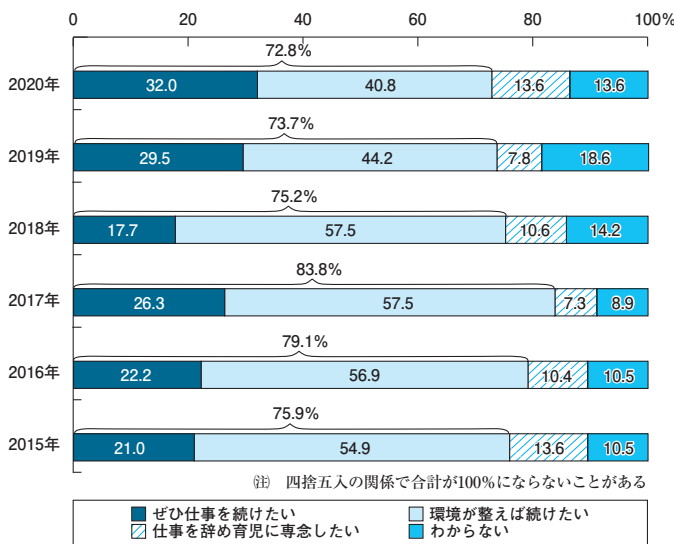
で5・9ポイント女性を上回っている。

図表13 結婚相手に求めるものは何ですか？（2つ以内の複数回答）



●結婚相手に求めるものは「相性の良さ」
結婚相手に求めるものは何かについては、「相性の良さ」が79・1%（同6・2%増）と突出し、以下「思いやり、愛情」が41・4%（同2・2%増）、「経済力」18・3%（同6・1%増）、「家事・育児への姿勢」15・7%（同4・9%増）の順となった（図表13）。
男女差が最も大きかった「経済力」は31・2%女性が男性を上回っているが、3年前は6・1%に過ぎなかったもので年々増加している。

図表14 出産後の仕事の継続（女性に対し）



●「出産後もぜひ仕事を続けたい」と「仕事を辞め育児に専念」する割合が増加
女性に出産後の仕事について尋ねたところ、「ぜひ仕事を続けたい」が32・0%と、前年より2・5%増加した一方、「仕事を辞め育児に専念したい」も13・6%と5・8%増加し、「環境が整えば続けたい」が40・8%（同3・4%増減）と低下した。「ぜひ仕事を続けたい」人と、「仕事を辞め育児に専念したい」人に2極化する傾向となっている（図表14）。

調査結果をみると、今年の県内新入社員は新型コロナウイルス感染拡大前の就職活動で人手不足が続くなか、学生優位の売り手市場の状況が続いた。職業観も売り手市場を反映し興味のある仕事ができる会社を選び、きっかけがあれば転職したいといった希望を持つ傾向が強まった。
生活観は、男女とも結婚希望の割合が上昇したものの晩婚化傾向となった。また、女性では結婚相手に経済力を求める一方、結婚出産後は「ぜひ仕事を続けたい」と「結婚・出産後は育児に専念したい」で別れる傾向が続いている。

なお今回調査では入社後3か月を経過し、仕事重視から個人生活重視へ、長期勤務から転職希望への意識の変化が見られた。コロナ禍による勤務環境の変化の影響のほか、実際の職場を経験し期待と現実の乖離を感じた可能性も考えられる。最も不安定な時期を経た新入社員の成長はこれから本格化する時期である。従業員個々の能力とモラルの向上は企業の強みの源泉でもある。コロナ禍で厳しい経営環境が続くものの、長期的な視点での企業体質の強化に向け、優秀な人材の育成・確保に繋がる職場環境が醸成されることを期待したい。

（副部長 岩渕 啓一）